なっとくんの

なるほどなっとくニュース

２０１３年１１月２日　No.４７

県立山口博物館
学校地域連携担当

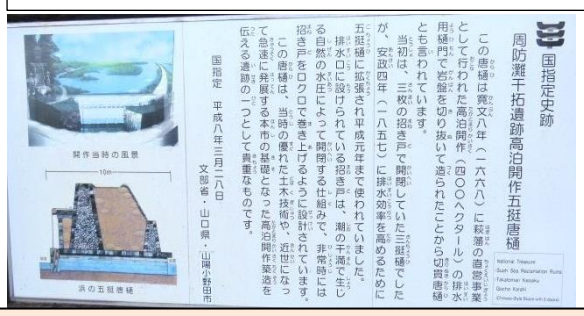
なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館のホームページでダウンロードすることができます。

瀬戸内海を干拓した土木技術の名残り、「高泊開作五挺唐桶」

山陽小野田市にある国指定史跡の「周防灘干拓遺跡高泊開作五挺唐桶」・・・塩分の多い干拓地を淡水化するためのしくみ

こちらが海側（海水）です。潮の干満による水圧で開閉するしくみだそうです。江戸時代から平成元年まで実際に使われていたことから当時の高い技術と完成度がうかがえます。

こちらは陸側（淡水）です。ここから淡水のみを海に排出し、海水は逆流させないしくみです。



海側正面から見た唐樋。

唐樋の仕切りの堤防から見た海側。現在は直接海にはつながっていません。

瀬戸内海の沿岸は、遠浅の海が広がり、古くから塩田や干拓地として活用されてきました。しかし、海水に浸かっていた土地で農業をするためには、塩分を取り除くための工夫が必要で、その基本的なしくみは現代の運河などの水門（閘門）と同じです。(10/21 撮影)

日本の近代化を支えた炭鉱の跡

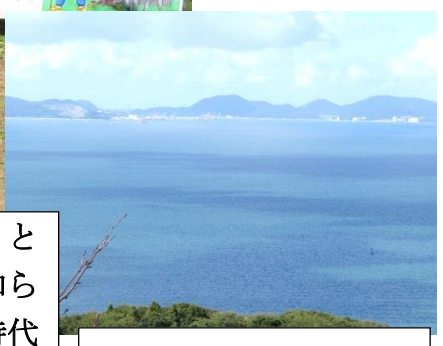
山陽小野田市にある旧本山炭鉱斜坑抗口

ここから坑道が沖合約３ｋｍまで続き、総延長 19ｋｍ、最深部は約 200ｍもあったというから驚きです。しかし、地質が悪く、多数の人が亡くなる悲しい事故も起きました。

古代の通信網「烽(とぶひ)」

山陽小野田市の竜王山山頂付近

烽（とぶひ）は、後に狼煙（のろし）と呼ばれるもので、昼は煙で、夜は火で知らせました。ここ竜王山公園には、奈良時代以前から明治維新のころまで使われていたものが復元されています。まさに烽（とぶひ）、「飛ぶ火」だったのでしょう・・。



竜王山山頂展望台から見た周防灘。奥が関門海峡で、左側が九州。